

新井中央小だより

ホームページ <http://azalea.ac.city.myoko.niigata.jp/araich-s/otayori/index.html>メールアドレス chuou@ac.city.myoko.niigata.jp

No. 301

2025(令和7)年1月23日

感謝の言葉があふれる学校に！

2025年新しい年がスタートしました。今年の干支の巳(蛇)のように、ゆっくりでいいので子どもたちが常に前進(挑戦)し、脱皮するがごとく成長したり、新たな自分を見つけたりする、そんな年になることを願っています。保護者の皆様、地域の皆様にとって、2025年が幸せな年になることをお祈りいたします。

さて、1年間のまとめの3学期が始まり、子どもたちは落ち着いた姿で教育活動に取り組んでいます。先週も保護者の方のボランティアのご協力により、高学年児童のスキー教室を行いました。支援していただいたボランティアの皆様には、感謝の気持ちでいっぱいです。自然の中で、アルペンスキーの体験活動を行い、子どもたちは実に楽しそうに学習を楽しむと共に、そこで人(学年のなかま、保護者ボランティアの方、指導者の方)との新たなかかわり、人間関係を築いていました。



スキー教室

3学期始業式で、「感謝の気持ちを持ち、たくさんの感謝の言葉を伝えてください。」と子どもたちに話しました。1年間を振り返ると、自己の成長を支えるのは周囲の人々、同学年や異学年のなかまであることに気がきます。子どもたちは、とかく「なかまや友達は、一緒に遊んだり、たくさん会話したりする人」と考えがちですが、それだけではありません。自分を支えるなかまや友達は、あまり会話をしなくても、心配してくれたり、気にかけてくれたり、応援してくれたり、尊敬・尊重してくれたりする全ての人です。同じ学年のなかまだけでなく、異学年のなかまとのかかわりも多いはずで、異学年のなかよし班活動では、この1年間、遠足やなかよし遊び、清掃など、たくさんの活動の中でかかわる場面を意図的に設定してきましたので、最高学年の6年生をはじめ多くの学年のなかまから子どもたちは支えてもらったことになります。

そんな周囲の人にたくさん感謝し合う学期にしたいのです。感謝すれば、感謝された人は明るくうれしい気持ちになります。もっとかかわろうとする意欲をもちます。感謝の言葉を伝えた子ども自身も、明るい気持ちになります。その人との絆が強くなるだけでなく、前向きになり、物事に積極的に挑戦できるようにもなります。確実に成長につながっていきます。感謝の言葉が学校中にあふれていけば、その人だけでなく、周囲の人、さらに全校が明るい雰囲気になっていきます。「自分も みんなも 明るく うれしく よかったね」と毎日思える学校になるはずで、始業式では、『ありがとう』は人を笑顔にする魔法の言葉です。ぜひ、学級、学年、なかよし班、全校の自分の周りの人に、1年間の感謝の気持ちを伝えてください。何よりも『ありがとう』と言った自分の心が明るく、うれしくなります。もし、『ありがとう』という言葉が、学級や学年、なかよし班でたくさん使われていけば、全校のみんなが笑顔になり、毎日がもっと楽しくなります。」という言葉伝えました。

6年生が中学校に巣立つ3月卒業式、1~5年生が新しい学年に進級する前の終業式に向けて、感謝の言葉があふれる学校にしたいと思います。今、社会でも子どもの居場所の減少が問題となっています。学校は子どもにとって、居心地の良い安心・安全なところでなくてはなりません。安心・安全基地があれば、失敗を恐れずどんどん物事に挑戦し、成長できます。感謝の気持ちや言葉は、安心基地を生む大きな力になるはずで、

(小林 朋広)